

# 年頭のごあいさつ

南部町長 小沢 介三

地方重視の政策に転換することを公約に掲げましたけれども、言いながら、今度は地方が最も頼りにしている道路特定財源を一般財源化する方向に強く踏み出すなど、決して地方重視の姿勢を感ずることが出来ません。国政の今後をしっかりと注目してまいりたいと思っております。

次に中部横断自動車道増穂清水間は、道路公園が民営化、つまり官から民に変わった途端に不採算道路と言うことで希望が絶たれる状況になってしまいました。しかし昨年1月、山本知事によりまして県費を投入しても、この道路はやるべきであると言う素晴らしい英断がなされ、しかも直ちに着工して、早くも8年、後とも10年以内には開通させると言うことでありますので、特に県境の南部町にとりましては40年の悲願が遂に成れりと言う思いであります。誰にも決して成しえなかつた決

断をしてくれた山本知事に対し、感謝の気持ちでいっぱいでありました。

さて、南部町の財政は平成17年度決算で既に公表をされておりますが、財政再建団体もしくはその危険性がある市町村も数多くある中で、本町は引き続き健全財政を確保しております。基金の総額は約42億円、起債総額100億円に対し町の負担分は約30億円でありますから、後世の人達に負債を残すような心配は全くありません。そして特に申し上げることは、南部町はこの度の火葬場の完成を最後に、当分の間は必要とする大きな箱物の建設はないだろうと思っております。これからは福祉や教育、文化、環境と言ったようなソフトな面に対して財政的に余裕を持つて対処していくことが出来るだろうと思っております。考えて見ますと、合併する市町村が新庁舎の建設をはじめ、ハードな事業にこれから莫大なお金を支出していかなければならない状況を見ると、いち早く合併して全ての基盤を整えられている南部町の優位性を改めて感じているところであります。

それでは今年も、町民の皆様と議会のご支援を頂きながら県境の特色ある町づくりに向って、職員ともどもに一生懸命頑張つてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

新しい年の出発に当り、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りを致しまして、年頭のごあいさつにさせていただきます。

明けましておめでとございます。町民の皆様には、ご健勝でよい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

最近の国際情勢は、テロや地域紛争が激しくなり、また、我が国をとりまいてるアジアの状況も決して安泰とは言いい切れないものがあります。

一方国内では、いじめによる自殺等が後を絶たないと言う、誠に悲惨で深刻な問題に我々大人がどう対処していかなければならないのか、その適切な

対応策が見いだせないことへのもどかしさを感じます。

さて、国政は小泉さんから安倍さんに政権が移りました。小泉改革は経済政策におきましては一応の成果を見たものの、地方軽視の政策が都市と地方との格差をひろげ、その結果、地方自治体は行政運営に多大の自主財源を支出せざるを得なくなるなど、財政は押しなべて逼迫しているのが現状であります。しかし、安倍新政権は一転して

